

NPO 法人ハート・リング運動 設立記念シンポジウム

「認知症にやさしい社会」をはじめましょう!

人と地域と企業をつなぎ、もっと暮らしやすい日本へ。

プログラム	総合司会：熊田梨恵
18：30	開会 いまこそ立場を超えてつながる時
	開会宣言 柴田範子（東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科 准教授・NPO 法人 理事長）
	問題提起 熊田梨恵（20代～30代アンケート結果紹介から）
18：40	「認知症にやさしい社会」への期待
	認知症本人として（若年性認知症） 佐藤雅彦「～将来認知症になるあなたへ～」
	介護を担う家族の立場で 早田雅美（在宅・要介護5ながら母らしい人生を大切に考える）
	認知症に接し、応援する研究者の立場で 河野禎之（筑波大学 人間系障害科学域 特任助教）
19：15	認知症と社会 ～4代表理事から社会へのメッセージ～
	医療にできること。できないこと。 小阪憲司（横浜市立大学 名誉教授）
	今村聡（日本医師会 副会長）
	大久保満男（日本歯科医師会 会長）
	菊池令子（日本看護協会 副会長）
19：55	認知症と市民・企業 ～ハート・リング運動への期待～
	認知症・誰もが関わることとして ～イギリス国家戦略を見て～ 町永俊雄（テレビキャスター 元NHK キャスター）
	市民としてできること 北條俊彦氏（NPO 法人神奈川県 45 ダンス連合 代表）
	社会を創る企業人の立場で 佐藤将一郎氏（株式会社内田洋行 経営企画部広報課課長）
20：20	ハート・リングの目指すもの 今後の活動展開について
	事務局長 早田雅美
20：40	閉会
	熊田梨恵

●開催主旨

たとえば20代～30代の若い世代の方が「認知症」をどうとらえ認識しているかご存知ですか？その答えにこそ、認知症に悩む方たちの人生の道筋を閉ざしてしまったり、早期診断や治療の意義、適切な支援の推進、さらには認知症に向き合うポジティブな姿勢までもブロックしてしまう社会の認識が象徴的に潜んでいると感じています。認知症になっても、出来る事、やりたい事が全て失われてしまうわけではない、という事実をみなさんに知っていただきたいのです。そして、少しでも長く「その人らしく」生活し続けるチャンス、その人が求める幸せの有り方をできる限り、周囲や社会が守り続けて行こうとする意識のチェンジ、認知症に正面から向き合う姿勢こそが、超高齢社会を迎えた私たちに求められています。認知症をとりまく環境が変わる。そのことが、症状の安定や、治療の効果にまでも良い影響を与えとも期待されています。介護をする家族も貴重な社会資源であり、仕事との両立が尊重されるべきです。身近な健康問題となってきた認知症。家族や友人、医療や介護提供者、地域や生活に密接な企業など立場によって示せる「やさしさ」のカタチは様々ですが、経験や立場を超え、社会全体が自分に出来る事で前向きに「認知症にやさしい社会」のためのチカラになろうと参加する団結の輪を呼びかけたいと思います。

●NPO 法人ハート・リング運動とは

私たちが行う大切な仕事は、認知症に「遠い」人や企業と、認知症と共に生きる方々の距離を取り去るためのコミュニケーション活動であり、市民の声による市民のための応援運動です。認知症を自分自身の事と置き換えて考えてみてください。毎日の生活を家族・医療・介護従事者だけに任せきるのではなく、理解と思いやり・ハートにあふれた社会で、自分らしさとともに暮らしていきたいと思いませんか？ハート・リング運動は、超高齢社会に不安をもつ全ての皆さんから、建設的意見やアイデア・体験談・提案を求め続け、そうした声や情報をエネルギーに発行機関誌やメディアを通じて広報、またフォーラム形式による討論や、顕彰活動などを通じて、「認知症にやさしい社会」の広がり呼びかけてゆきたいと考えています。認知症の方や家族の方のためのサービスも今後急速に需要が高まります。企業の役割にも期待が集まり、「認知症にやさしい社会」にすることが日本の経済、そして社会を活性化させるきっかけにもなるでしょう。市民のためになる社会的なビジネスの創造支援も、NPOだからこそできる事です。ひとりひとりの心への呼びかけから、社会的応援までを大きな輪につなげて行くこと、それが「ハート・リング」運動です。「認知症にやさしい社会」とは不安、不満の少ない明るく活力に満ちた社会の事であり、私たち日本人が持ちうる「理解と思いやり」や「知恵」に満ちたサステナブルな社会です。

NPO 法人ハート・リング運動 代表理事



今村聡
公益社団法人 日本医師会 副会長



大久保満男
公益社団法人 日本歯科医師会 会長



菊池令子
公益社団法人 日本看護協会 副会長



小阪憲司
横浜市立大学 名誉教授